２０２２年１２月１１日（降臨節第３主日、A 年）
牧師メッセージ
「自分の喜びとイエスさまの喜び」
（マタイによる福音書 11:2-11）

司祭ヨセフ太田信三

今日はローズサンデー＝「喜びの主日」とも言われる主日です。アドヴェントクランツのロウソクの色もバラ色です。この主日、わたしたちにとって本当の喜びとは何か、あらためて福音に聴きたいと思います。

洗礼者ヨハネは獄中から弟子を遣わし、主イエスに尋ねさせました。

「あなたは来るべきメシアですか。それとも、他の人を待たなければなりませんか。」

ヨハネは主イエスがメシアだと知っていたはずです。しかし、ヨハネが待ち望んでいたメシアとは、悪を一掃する裁き手でした。ところが、主イエスはいっこうに裁きの火を燃やそうとしません。ヨハネが期待したメシア像と、実際の主イエスは異なったのです。ヨハネの中に疑いが生じます。ヨハネは牢の中でキリストのなさったことを聞いていました。にもかかわらず、彼は自分が望むメシア像から抜け出せず、主イエスに不満を感じています。

そのヨハネに対し、主イエスは「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。」とヨハネの弟子を遣わし、主イエスがなさっていることを伝えさせます。そこに福音が実現しているからです。今日の福音の後半、「預言者以上の者」と言われるヨハネですら、天の国では最も小さな者だと、主イエスは言います。なぜならそれは、ヨハネはまだこの福音に与っていなかったからです。

主イエスが行う奇跡は言葉によってなされました。「光あれ」という言葉によって神の創造がなされたように、主イエスの言葉に神の力が働き、新しい世界の創造が実現します。主イエスは、ヨハネの弟子たちに伝言を託すことで、あなたがたはもう神の言葉による新しい世界の実現の知らせ＝福音を聞き、見ているのだ、ここに天の国が実現しているのだ、とヨハネを福音へと招いたのです。

「わたしにつまずかない人は幸いである。」と主イエスは言います。幸いへの道は、自らの思い込みではなく、主イエスに「聞く」ことにはじまります。ただ、自らの期待をメシアに押し付けようとするなら、主イエスの真実を掴みそこねて、つまずくことになります。ヨハネの疑いや不満は、彼が本気でメシアを待ち望んでいたからこそ、だったのだと思います。彼は、その疑いや不満を抱きつつも、主イエスに尋ねました。このことを大切にしたいと思います。わたしたちも、自分の思いと主の思いとのズレを感じることがあるなら、祈りの中で、素直に主イエスに尋ねる者でありたいと思います。そこで示される言葉を聞いて、自らの喜びではなく、主イエスの喜びを受け入れるなら、そこに天の国からの「幸い」が訪れます。「喜びの主日」にあって、主からのまことの喜びをいただきたいと願います。